

生物リズム若手研究者の集い 2021 に参加して

左倉 和喜[✉]

基礎生物学研究所 進化発生研究部門

2021年11月22日沖縄県那覇市の沖縄青年会館で開催された生物リズム若手研究者の集い2021に参加しました。昨今のコロナ情勢によりオンラインでの講演会が多かったのですが、本集会には現地参加したため参加者や講演者と直接話すことができ、有益な時間を過ごすことができました。本集会は、3部に分かれた講演と、参加者全員が自己紹介を行うフラッシュトーク、そして参加者が少人数でグループを組み議論し合うグループディスカッションで構成されていました。

一題目の講演者は榎木亮介先生でした。「研究者として生きる術」という題目で自身の研究者人生の話を交えながら、主に科研費等の申請書を書く上での心構えを教えてくださいました。私自身はこれまで主に日本学術振興会特別研究員に応募したことがないため申請書を書くという経験が少なかったこともあり、非常に参考になりました。榎木先生とは、本集会以前に生理学研究所が主催するセミナーにオンラインで参加した際に先生の研究内容を伺ったことがある程度の面識しかなく、直接お話したことがありませんでした。しかし、本集会で直接お会いでき、榎木先生の方から「やっとリアルで会えましたね」と言っていたことは非常に嬉しかったです。

二題目の講演者は小島渉先生と柴田亮さんでした。お二方ともカブトムシを研究対象としておられます。私も今年度からカブトムシを使った研究を始めており、小島先生とは以前から連絡をとっていました。ただコロナの影響で直接会ったことはなかったのですが、本集会で初めてお会いし話すことができ嬉しかったです。また講演前後の休憩時間にカブトムシ研究に関して小島先生と意見交換できたことは非常に有益でした。一方、柴田さんは小学生ながら根気強くカブトムシを野外観察し、国際誌に論文が出版されるほどの方です。本集会ではその内容で講演されました。カブトムシが夜行性であることは広く知られていますが、シマトネリコに集まるカブトムシは昼間でも観察されるとのことです。柴田さんはこの理由として、シマトネリコの樹液を採餌するカブトムシが満腹になるまでに多くの時間をかけてしまうからではない

かと考えられていました。事前に柴田さんの研究内容については論文を読んで知っていましたが、いくつか感じていた疑問点を直接質問することができ非常に勉強になりました。

最後の講演者は深田吉孝先生です。深田先生は、自身の研究内容に加え科研費等の申請書の書き方を説明されました。さらにこれからの時間生物学会をどうしていくべきかについて、参加者とのディスカッションも行われました。私は以前から、時間生物学会にシンポジウム以外の口頭発表がないことについて疑問に思っており、この期にその理由を質問させていただきました。時間生物学会の日程上の制限から口頭発表の時間を確保することが難しいという理由を伺い納得しました。その他にも様々な意見が出ましたが、どれも今後の時間生物学会を考える上で重要なものであり、深く考えさせられました。

合間に行われたフラッシュトークでは、参加者が事前に用意してきた自己紹介用スライドを使って、持ち時間1分で自己紹介を行いました。参加者がどのようなことを研究していてどういう趣味をもっているのかなどが一度にわかるため、交流を深める上でも非常に有益でした。

そしてグループディスカッションでは、参加者が少人数でグループを組み、現在行っている研究内容を紹介し合い議論しました。私が参加したグループでは、植物から昆虫、哺乳類、そして数理レベルから分子レベル、行動レベルまで様々な観点から「生物リズム」という共通のキーワードを基軸として盛んに議論が行われました。時間生物学の学際性を思う存分感じることができました。

私にとって生物リズム若手研究者の会への参加は、今回が初めてでした。本集会に参加して最も良かったことは、これまでオンラインでしか話したことがなかった方と現地で話すことができたことでした。また本集会は1日限りでしたが過去の集会は2日間にわたって行われていたようです。コロナが終息し、従来のように長期間での開催が行われることを祈っております。

✉ kazuki@nibb.ac.jp